

研究に関する情報公開

<人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者[※]の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧いただくことができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には試料・情報を使用いたしませんので、その際は下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

| |
|---|
| <研究課題名> ICUにおける高濃度カリウム補正の適正使用に関する検討 |
| <研究機関・研究責任者名> 日本大学医学部附属板橋病院 薬剤部 今井 徹 |
| <研究期間> 令和5（西暦2023）年10月1日～令和7（西暦2025）年4月1日 |
| <対象となる方> 令和5（西暦2023）年10月1日～令和6（西暦2024）年9月30日の期間に当院救命救急センターで低カリウム血症に対して、高濃度のカリウム点滴注射によりカリウム補充を行った方を対象とします。 |
| <研究の目的> カリウムは体内に含まれるミネラルであり、心臓や細胞が働く際に重要な役割を果たしています。血液中のカリウム濃度が低下すると不整脈などが起きる可能性があるため、その補充にはカリウムの点滴注射を行います。カリウムは、腕など細い血管に投与すると血管に沿って痛みが生じる恐れがあるため、生理食塩液などの点滴に薄めて使用することが一般的です。しかし、ICUにて治療している方は心臓や腎臓の機能が低下していることが多く、水分の排泄能力が弱まることから、カリウムの点滴注射により体内に水分が溜まり浮腫や呼吸困難を引き起こす危険性があります。このような場合には、点滴の水分量を制限する必要があり、各医療施設で安全性に配慮したルールに基づき一般的な濃度よりも濃いカリウム点滴注射が行われています。当院においても、様々な知見に基づき、安全に投与できる高濃度のカリウム点滴について医療安全部門と何度も協議を重ねた上で院内のルールを設定しています。 そこで本研究では救命救急センターにて高濃度カリウムの安全性を確認するとともに、より安全に使用するための要因がないか検討し、更なるルールの改善につなげたいと考えています。 |
| <研究の方法> 日常診療のなかで、高濃度のカリウム点滴注射を受けた方は、点滴部位に異常がないか医療スタッフが定期的に観察し記録しています。その観察記録や検査値などを電子カルテから収集し静脈炎の発現状況やどのような要因があると静脈炎が起きやすいかなどのリスクについて解析を行います。 研究結果は論文等で発表させていただきますが、その際は個人情報の取扱いに十分注意いたします。 |

<研究に用いる試料・情報の項目>

対象となる方の高濃度のカリウム点滴注射の投与日時、静脈炎の有無、現病歴、既往歴、年齢、性別、体重、臨床検査値（電解質、腎機能など）などの情報を収集いたします。

<お問い合わせ窓口>

日本大学医学部附属板橋病院（東京都板橋区大谷口上町 30-1）

薬剤部 氏名：今井 徹

電話：03-3972-8111 内線：(PHS) 8859

※研究対象者とは、以下に該当する方（死者を含む。）を指します。

①研究を実施される方

②研究に用いられることとなる既存試料・情報を取得された方